



ENVIRONMENTAL REPORT 2016

2016 環境報告書

PRODUCTION DIVISION
生産事業本部

生産事業本部 概要



富山工場

事業内容
医薬品製造業 医薬部外品製造業 健康食品の製造

敷地面積

敷地面積: 48,073㎡ 生産施設: 8,142㎡
建築面積: 14,556㎡ 緑地面積: 9,647㎡

富山第二工場

事業内容
医療用注射剤製造

敷地面積

敷地面積: 29,538㎡ 生産施設: 3,705㎡
建築面積: 6,493㎡ 緑地面積: 7,545㎡



1986

富山県富山市婦中町板倉に富山工場設立

● 顆粒剤製造開始
カプセル剤製造開始
錠剤製造開始

1990

増強工事
ドリンク 点眼 軟膏製造開始

1997

自動ラック式倉庫新設

2005

改修工事
固形製剤の大型生産器導入

2012

改修工事 新薬製造ライン導入

1992

富山第二工場竣工 アンブルライン稼働開始
医薬品及び治療薬の製造委受託業開始

2004

第2期工事竣工
オゾン微生物制御システム共同開発と特許取得

2009

第3期工事竣工
大量生産型凍結乾燥バイアルライン導入
自動ラック倉庫稼働開始



人々の健康を守る為に
複合型医療品企業を目指して
新たな未来を拓いていきます。

株式会社富士薬品 生産事業本部

環境報告書

2016

CONTENTS

生産事業本部 概要	1
生産事業本部長 ご挨拶	2
環境基本理念	3

環境マネジメント

EMS体制	4
ISO14001 認証取得状況	4
環境目標	5
環境負荷の概要	6
低炭素社会への取り組み	7
循環型社会への取り組み	11
水系への排出抑制	14
化学物質の管理	15
社会とのコミュニケーション	15
働き易い環境づくりと人材育成	16

編集方針

「株式会社 富士薬品 環境報告書」は、富士薬品 生産事業本部の環境配慮に関する目標や活動内容を報告します。

㈱富士薬品 生産事業本部の環境配慮に関する活動報告を広く皆様にご理解を頂くことを目的に発行しています。報告事項の選定にあたっては、生産事業本部の主な取り組みを中心に、グラフや数値を用いて具体的に説明します。今回は3回目の作成ということで、前回より内容を充実させ、見やすさ、分かりやすさを心がけました。多くの方にご覧いただけるよう、発行した環境報告書は弊社ホームページに掲載します。

次の環境報告書は2017年9月の発行を予定しています。

報告書の対象期間

活動実績については2015年4月から2016年3月を対象期間としています。一部の報告については、この期間外のものもあります。

報告書の対象範囲

この報告書は、株式会社 富士薬品 生産事業本部の富山工場、富山第二工場の2工場が対象です。

今回の環境報告書の発行にあたって

ISO14001の活動実績をまとめ、次の1年間の活動の基盤として、また、活動内容を見つめなおし、多くの方々にご覧いただき、環境報告書を発行しております。

生産事業本部長 ご挨拶



本年5月、富山国際会議場にてG7 富山環境大臣会合が開催され、生産事業本部でも改めて環境活動に対する意義を再認識したところです。社員一同と共に、水と緑に恵まれた富山の豊かな自然を守っていききたいと思います。

さて、富山に生産拠点をおく株式会社富士薬品の生産部門として環境活動に取り組み、こちらも5月にISO14001の再認証（3回目の更新）を取得しました。規格の2015年度版への移行期間でもあり、いくつかの観察事項も検出されましたがISO事務局を中心に是正処置、根本処置に取り組んでおります。

昨年度の活動内容をこの報告書にまとめておりますが、エネルギー使用量の削減は目標達成しておりますが、廃棄物埋立率の削減については計画通り進んでおらず、努力が必要な状況です。カイゼンを積み重ねて効果を出していきます。

今後は環境目標に掲げた数値目標を目指してエコアクションを推進するほか、環境保全活動にも積極的に取り組んでまいります。

(株)富士薬品 生産事業本部長

萩原 彰人

株式会社 富士薬品 生産事業本部では、環境方針に基づいて環境活動を推進しています。

環境管理基準書 別紙2

文書番号 E1100-02



株式会社 **富士薬品**
生産事業本部

環境方針

環境理念

健康産業に携わる私たちは、人々の健康を第一に考え、地域社会の皆様とともに健康で快適な暮らしが続けられるよう、自然環境の保護拡大と資源の有効活用を大前提にして、創意と工夫を凝らした企業活動を推進します。

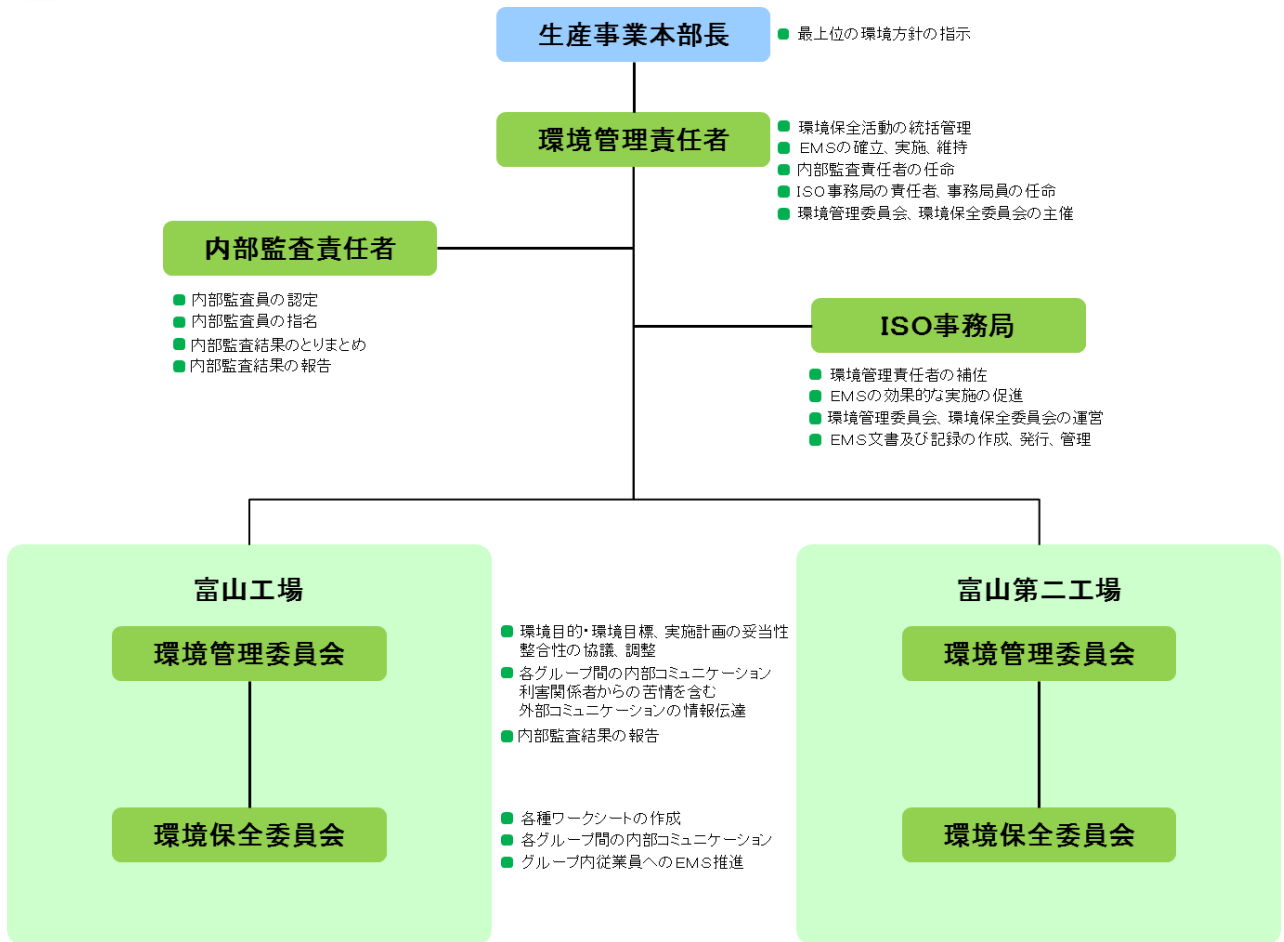
環境方針

1. 生産活動に伴う環境負荷を掌握し、地球環境に優しい生産環境づくりを推進します。
2. 環境目的及び目標を設定し、継続的に環境改善を実行するとともに定期的及び状況の変化に応じて目的や目標の見直しをはかります。
3. 法的及びその他の要求事項を遵守し、コンプライアンス重視の姿勢はもとより、エネルギー・CO₂対策、廃棄物の削減及び環境汚染の予防に努めます。
4. 富山の自然環境及び工場周辺環境との調和を図りながら、工場敷地の緑化保全・推進に努めます。
5. 富士薬品のステークホルダーに、環境に対する取組みの理解と環境意識の高揚をはかります。又、地域とのコミュニケーションを大切にし、地球環境保護の輪を広めます。

この環境方針は社内外に公表します。

2013年5月26日制定

EMS体制



ISO14001^{*1} 認証取得状況

(株)富士薬品 富山工場は2007年5月認証を取得、2013年5月に富山第二工場へのサイト拡大を行い、(株)富士薬品 生産事業本部として、認証を取得しました。2014年度はサーベイランス監査を受け、活動に問題がないことを確認しました。

2016年5月には3回目の更新審査を受けました。

※1 ISO14001: 国際標準化機構 (ISO) が作製した国際規格。



3 環境目標

2015年度の環境目標は環境方針をもとに、生産事業本部 全体の目的・目標及び実施計画を立案しました。3ヵ年ごとに計画を設定し、取り組みました。

今年度、富山第二工場は省エネルギー対策について、目標値を大幅にクリアしました。両工場とも生産量減少によるエネルギー使用量の減少が要因として考えられます。エアークリーニング対策を中心に省エネルギー対策に取り組み、無駄排除とカイゼンの効果があったことから、両工場とも目標値をクリアできました。

廃棄物埋立率の削減については、目標達成出来ませんでした。ファイバードラムの金属部分の有価物化を進めていき達成出来るようにします。分別回収により資源化を目指していきます。

今後はこの結果を活かし、目標設定の精度を向上させて活動を推進してまいります。





環境負荷の概要

2015 年度の実績

集計範囲:(株)富士薬品 富山工場, 富山第二工場

